

ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー

千葉大学 教育学部 学校教員養成課程

東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師

加瀬 政美

【第6号】 中学校向けバージョン

★「リテリング」（例、「読むこと」から「話すこと」）を取り組んでいるのですが、どうしても生徒たちは話すことが難しいようでどう指導したらいいですか？ という質問をよく受けます。さあ、あなただったらこの課題に取り組みますか？

まず、「リテリング」をスムーズに行えるようにするにはどんな力が必要なのでしょうか？

- ① 聞いたこと、読んだことを要約する力
- ② 大事なところを押さえてまとまりのある文で話したり、書いたりする力

- ① の要約するには、どんなスキルを教えていく必要があるのか。ズバリ、「メモ」です。「メモ」は、英語でも日本語でも記号でも構いません。自分が表現するための補助シートのようなものです。
- ② で、例えば、「話すこと」で表現する場合、生徒にその力を発揮させようと指導者は試みているのですが、子どもたちの力がそこに追いつかない現象、それは、普通の授業や英語指導で土台づくりのための英文を作って話すという習慣が圧倒的に少ない原因です。また、「正しさ」を追求し過ぎて、誤りが怖くて話せないという授業の雰囲気があるかもしれません。「正確性」は、大事です。しかし、100%英語を正確に話す人は、見たことがありません。完璧じゃないと評価「A」ではありませんとなると指導者も学習者も苦しくなります。「正確性」の幅を広げることが大事です。許容範囲というやつです。発達段階に応じて、もう少し上のレベルになったら、正確性の水準を上げていくことが大切です。

では、どんな土台づくりトレーニングが有効か紹介します。

例) 過去形の文法事項が終わったとしましょう。(指導状況)

自分の「昨日について」英語で話してみるのがおすすめです。メモして話す、いわゆる「日記帳で話す」です。「昨日起きたことを3つ英語で言きましょう」このレベルで十分です。小学校6年生もできます。初めのうちは、その日の出来事を3つ箇条書きにして、それを英語にする。少し慣れたら、それぞれの出来事について少し詳しく説明するというのが良いでしょう。また、写真を活用すると話しやすいです。写真にはそれにまつわる思い出や背景、さまざまな情景があります。このトレーニングは、英検3級、準2級の2次対策でも有効です。英文日誌というシートを作成してハンドアウトするのがオススメです。毎回実践して、授業の帯活動の中で、Talking Time という発表そして仲間とやり取りする機会をとつ

て、自信をつけさせていくことも有効です。3ヶ月で見違えるようになります。是非、実践
してみてください